

待降節第3主日

12月17日

(ルカ3:10-18)

どうすればよいか

「わたしたちはどうすればよいのですか」。群衆も、徴税人も、兵士も、洗礼者ヨハネと同じ言葉で問い掛ける。もしかしてヨハネがメシアではないかと思つて…。

わたしたちはどうすればよいのか。誰に聞こうか…。イエスがメシアだと信じているわたしたちはイエスに聞く。ほかの誰でもないイエスに。ヨハネは水で洗礼を授けるが、イエスは聖霊と火で洗礼を授ける。聖霊がイエスを見させてくれる。イエスに尋ねさせてくれる。

神の思いは、人の思いとなんと違っているのか。メシアの誕生、メシアの死。それは誰も想像することのできない誕生、そして死であった。メシアの誕生から二千年たった今でも人々は理解することはできない。神が貧しさの中で生まれ、そして

死んでいったことを。その誕生も生も死も美化されてしまつた。

聖霊は教える。わたしたちの知恵をはるかに超えて。

マリアとヨセフの結婚は祝福されたものではなく、親せきからも排斥され、人々からも非難



を受ける。生まれたばかりの赤子は、人間にとっては不潔きわまりない家畜のえさ箱に布にくるまれて寝かされる。これが神の子の人生の始まり。

ヨセフは卑しい職とされていた石切をして生計をたて、イエ

スは共に働く。「あれはマリアの子」と人々がイエスに浴びせる言葉は、けつして称賛の言葉ではなく、非難と罵声(ぼせい)。そのイエスは虐げられ、人々から差別され、貧しくされた人々と共に生きる。あなたたちこそ神から愛されている人なんだ、と。

そのように生きたメシアは人々によって死に追いやられる。人によって裁かれ、死刑に定められる。これでもかこれでもかといたぶられ、苦しめられ、殺される。神が人に殺される。このようなことが考えられるだろうか。

「わたしたちはどうすればよいのですか」。イエスに尋ねるとイエスは答える。「わたしが愛したように、互いに愛し合いなさい」と。イエスが愛したように…。

わたしたちは「どうすればよいのですか」と問いながら、その答えに耳を傾けようとしな

い。答えが分かっているのに、そうしようとしな。他の人に聞き、他の人に答えを求めろ。

イエスとは違う答えを。ことしこそは聖霊の導きに従い、聖霊に励まされ、聖霊と共にメシアが示された道を歩みたい。

それは貧しくされた人々と共に生きること。それはイエスと共に生きること。殻を火で焼き払われること。

(山元真二福岡教区司祭/カソト上下とも高崎紀子)

この週の福音

18日・月	マタイ	1・18—24
19日・火	ルカ	1・5—25
20日・水	ルカ	1・26—38
21日・木	ルカ	1・39—45
22日・金	ルカ	1・46—56
23日・土	ルカ	1・57—66

キリストの光のキリスト